
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.15 (2012年12月15日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

市民協いしのまきハウス情報

伊藤 寿朗

◆◆イルミネーション点灯◆◆

12月8日、午後5時に点灯。「ワー・きれい!!!」歓声と拍手が周囲の人たちから起こり、心の底から温まる感じが湧き出てきました。

このイルミネーションは、市民協がコーディネートし、いくつかの団体の協力を得て寄贈されたものです。多くの方々の復興への願いと助け合いの気持ちが、一つの灯りにこめられているように輝いていました。

なお、贈られたイルミネーションの一部は、会員が関与している3団体と、石巻市社会福祉協議会経由で複数の団体にも利用してもらいました。



◆◆第4回コミュニティカフェ・うめばたけ◆◆

前日の雨も上がって太陽が顔を出し、気温も前日より6度C以上高い14度Cと快適な日曜日(12月16日)、第4回のコミュニティカフェ・うめばたけが開催されました。

参加者はスタッフを含めて37名。開会あいさつの後、早速、矢口清志さん兄弟のギターと打楽器、そして、会員である松川さん、古澤さんのハーモニカ伴奏により「聖しこの夜」「シングルベル」の合唱がスタート。この日のためにスタッフが準備した歌集を手に、「花は咲く」「もみじ」「北上夜曲」・・・と1時間、熱唱が続きました。

次に、ビンゴゲームで盛り上がり、ビンゴ!!!できた人には寄贈されたサンタ靴下などの賞品がプレゼントされました。スタッフが準備した軽食を楽しんだ後、まだ歌いたいとの要望にこたえ、さらに30分ほど合唱を楽しみました。



仮設のトリセツをご存知ですか？

古賀 久恵

発災から3カ月を過ぎ仮設への入居が始まった頃に、一部で重宝がられていた「仮設のトリセツ」という小冊子がありました。中越地震での仮設居住者の方々が仮設で快適に暮らすために実行した知恵を紹介した冊子です。

先日、宮城県の亘理駅から仙台駅までのJR常磐線の列車内でたまたま一緒のボックス席になった方々同士が、「私はこんなことをやってるわ」と、仮設暮らしの工夫で盛り上がっていました。私はその方たちの席と通路をはさんだ横の席でしたからよく聞こえてきました。

「押入れにはものをたくさん詰めておくと暖かい」
「まとめて洗濯すると干す場所がないから、毎日少しずつ」
「室内で干すときには新聞紙をひいて置くとジメジメしない」
食器棚が場所をとっているという声に対して
「入居したときから靴箱を食器棚にしているから、うちは広い」と…。
これには驚きました。生活の工夫はすごい。

「仮設のトリセツ」のホームページには東北の知恵も追加され、狭い仮設住宅での知恵が掲載されています。仮設ではなくても取り入れると便利そうなアイデアがたくさんです。

「仮設のトリセツ」で検索してみてください。

【編集後記】

「いしのまきハウス」のイルミネーション、とってもきれいですね。記事にもあるように、この美しさも多くの方の協力があってこそ。

イルミネーションといえば、仙台「光のページェント」も12月7日から始まりました。1986年から始まった「光のページェント」も今年で26回目。—去年はLEDを導入し、それらを飾るケヤキの負担が軽くなったのですが、その電球を保管していた倉庫が海側だったため津波で全て流され、去年は全国さまざまな所からお借りして、何とか開催にこぎつけたのでした。今年は新たにLED電球を購入し、60万個の光が灯っています。

何でも「始めること」は大変ですが、継続することはもっと大変、すっかり仙台の冬の風物詩となった「光のページェント」も、いろいろな方たちの協力があってこそ続いているのだとあらためて思いました。(大久)